

国産材の積極的な活用で環境保護に貢献

## 持続可能な国産材の家を、 産地と結んで首都圏で建てる

Yさん ● 埼玉県

設計／フィールドネット一級建築士事務所

ECO house data

山形県金山町のスギを産直で  
購入しふんだんに使う

自然素材を家中に使用

庭と一体になった住まいで身  
近な自然と親しむ



広々とした玄関土間は、ご主人の木工や蕎麦打ちの作業場にもなる。庭仕事の合間に靴のまま休むこともできる。「ここで庭を見ながらコーヒーを飲んでいると時間を忘れます」と奥様



右上／解体した家のいぶし瓦を、門から玄関までのアプローチに敷きつめたのは、Yさん夫妻と山中さんの共同作業左／しっとりとした趣のある玄関ポーチ。竹の仕切りは、知り合いから譲られた青竹でご主人が制作したもの 右下／こまめに庭に出て手入れをする奥様。庭には少しづつ集めた山野草が120種にも上り見事。工事の廃材をもらって木道もつくった



「すごく快適よお、山中さん！ 本当によかったです……」室内を案内しながら、Yさんの奥様から笑顔とともに繰り返し賛辞の言葉がもれる。山中さんは、「木の家づくりネットワーク」主催者でこの家を設計した建築家だ。外はムツとするほど蒸し暑いが、家の中はさらりとして心地よい。

「この辺りは湿気の多い場所なんです。前の古い家は外より家の中のほうがじ

めじめして、カビ臭いのが嫌でした」新しい家は、「自然材でつくりたい」という強い思いをもつていた奥様。山歩きや山野草が大好きで、ボランティアで森林公園の整備を行うなど、ふだんから自然に親しんでいる。そんな暮らしぶりから直感的にわいてくる思いだつた。

それでも、2年間かけて地元の工務店からハウスメーカーまでいろいろ見て回り、話を聞いたという。「木の家」と名前は付いていても、集成材の柱に薄い板を張つてあるだけだつたり、そういうのはどうも違うなあと感じていた。『うちなら勉強（安く）してつくれますよ』という営業攻勢に遭つたけれど、お金の問題じゃないと思いました。あるとき、知り合いの家を訪ねると無垢の木を使つたつくりで、なぜだかすごく落ち着くんですね。『あ、これなら！』って思つたんです

それは日本有数のスギの産地、山形県金山町の森林組合と首都圏の消費者を結ぶ「木の家づくりネットワーク」がつくれた家だった。このネットワー



無垢の木と漆喰壁の明るい室内。リビングには床暖房を設置。床材は桜。ほんのりとピンクがかった色が好ましい



伝統的な木の家の特徴である深い軒の出は、風雨から家を守るとともに外観に彰りの深い陰影を与える。いぶし銀黒瓦がしっとりとした落ち着きをもたらしている



庭に向かうリビングの頭上は2層吹き抜けで、天窓から柔らかな光が降り注ぐ。面皮丸太の太い梁が艶やか。掘りごたつ式の座卓で気楽に腰かけるスタイル



右／2階ホールは吹き抜けを通してリビングと一緒に空間に  
左／1階8畳の和室の壁は珪藻土塗り。天井はサワラ板張りで  
シンプルなデザインとした



傾斜天井で広々とした2階の寝室。奥様はここで手芸に励むことも。壁は土佐和紙張り仕上げ

クでは、建主を中心に林業・製材業・施工者・設計者がチームになって家づくりに取り組んでいる。それにより、無駄がなくスマートに仕事が運ぶ。すべての人がいい家づくりのために全力を尽くせる、「みんなが得する」システムなのだ。

Yさんは、同ネットワークでつくられたほかの家や、工事現場に足繁く通つて見学し、工事が始まってからは夫婦そろって金山町に足を運んだ。「自分の家の木がどういうところで育ったのか、行ってみたいと思いました。10年近い樹齢の太い木がたくさん生えていて。「あそこがYさんのお宅のために伐採した場所ですよ」と教えていただいたり、産地の大工さんたちと交流したり」。Y邸の場合、山中さんの設計に沿って金山で加工した木材を埼玉に運び、金山の大工が上棟。その後現場近くの大工に造作工事を引き継ぐ「リ

「家中どこにいても落ち着くんです」という奥様。2層分吹き抜けた開放的なリビングには、ひと抱えもある大黒柱がどっしりと根を下ろし、大空間を支えている。「大黒柱を背もたれにして座ると、庭がすごくきれいに見えるの」。どこからでも庭が眺められる家にしたいという望みも叶って、雑木と山野草の庭づくりにもますます熱が入る。

バードカービングを始めたご主人は、家の一番よい場所にアトリエを構えた。鳥を呼び寄せるために植え込んだ実になる木は、横長の出窓から眺めるのがちょうどよい。ここに座れば、バードウォッチングとバードカービングを同時に楽しむことができるのだ。日曜日には広い玄関土間で蕎麦を打つ。「確かに行かなくても、ここにいられればいいんです」と奥様。いろんな夢や楽しみが詰まった家である。



8寸（約24cm）角のスギの大黒柱は樹齢80年以上。「じゃまになるのではと心配だったんですけど、気になりませんね」と奥様。庭を眺めるときのよい背もたれにもなる



上／リビングから階段、2階、右手の水まわりまで一体の空間に。開放性を好むYさんの暮らしにぴったりのつくり 下／斜め格子のモチーフが、インテリアに若々しさと軽やかさを与える

右／竹天井越しに天窓から優しい光が降り注ぐアトリエ。こぢんまりとした茶室的な空間で集中力も高まる 左／青森ヒバの縁甲板を張った浴室も、木の香りがいっぱい



明るい2階ホール。1階から伸びる大黒柱が安心感を与えてくれる。階段の手すりやホールの腰壁などにさりげない意匠が施されていて、雰囲気を柔らかくしている

## 産直だから実現できる、生産者にも消費者にも適正な価格



「金山が住まい手のふるさとのような存在になってほしい。家を建ててからもつながりを保てるような工夫をしたい」と山中さん

産地と提携し、木材を住まい手に直送するので、流通マージンをとられることがありません。ネットワークでつくる家は、一般的な住宅より木材が太く材積が約3割ほど多いのですが、流通コストの削減により市価より大幅に安く提供することができるのです。がつり骨太なつくりで80～100年は住みつづけることができ、長期的に見れば低価格とも考えられます。

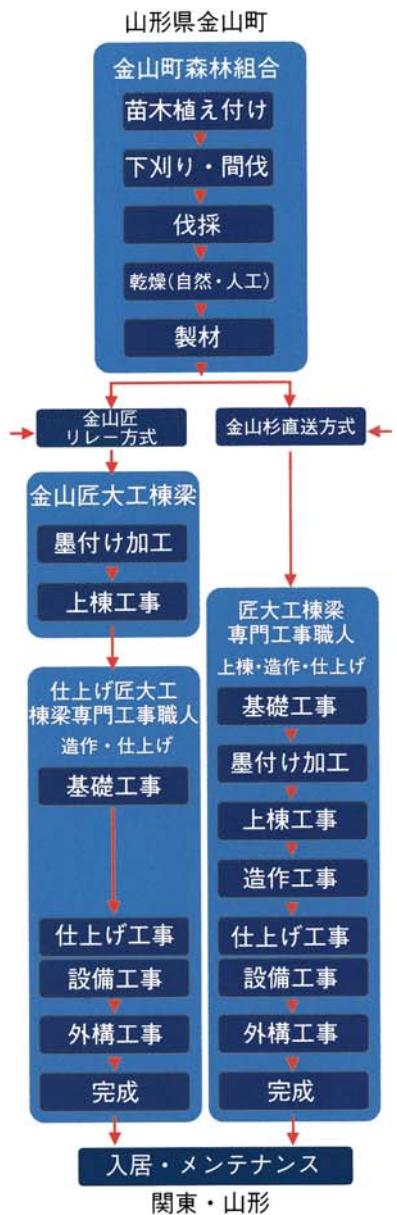
## 産地とつながり、良質な国産材を生かす家づくり

金山町には、木材を育てて送り出す地域の力強さがあります。山形県の北部に位置し、夏は暑く、冬は背丈ほどの雪に包まれるという自然条件がスギの生育に適しています。80年以上の大木が林立する「杉のまち」として知られています。スギは植林後50～60年後に伐採する

のが普通ですが、金山杉は平均80年以上。そのため、節の少ない均一な製品をそろえることができ、大きな構造材を含めた家一軒分の木材を、統一して用意することが可能です。

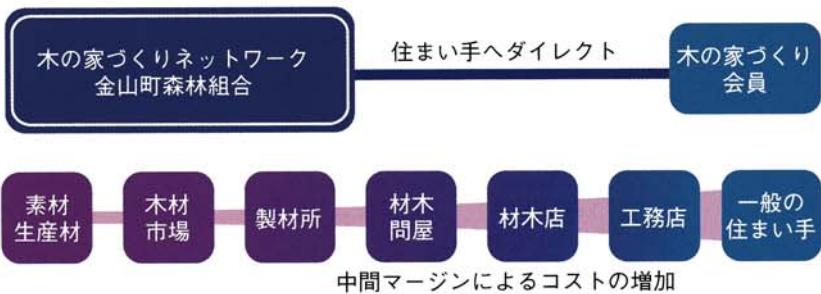
雪深く冬が長い厳しい気候により生長が遅く均一なため、木目が非常に細やかで美しく強革。赤身と白太のコントラストが美しいのも特長です。

## ■ネットワークの構造



リレー方式と、金山杉で首都圏の匠大工棟梁が上棟から仕上げまでを行う直送方式がある

## ■コストの流れ



丸太の入手と製材を一括して行っている産地と提携し、住まい手に直送。良質の木材を豊富に使える

今までこそ積極的な材木の産地がたくさん出てきていますが、「80年代当時は多くはありませんでした。その中で、金山町は主たる産業の木材をどうしたら買ってもらえるか」ということに真剣に取り組んでいました。森林組合と東京の設計事務所との交流会が行われ、そこに参加させていただいたのが縁の始まりです。

金山に行って大工さんと触れ合ったり、木を見たりするなかで、木材産業というものを肌で感じながら都会の人たちに伝えていきたいと思うようになりました。木材だけではなく人の交流が生まれていくことで、よりよい家づくりができるのではないかと。

最初は産地から材だけを頂いて、首都圏の大工さんに加工してもらっていましたが、やはり地元の大工さんは材料の特徴をよく知っているし、大工さんの加工場が産地と近いと情報や材料がやりとりしやすいという地の利があります。そこで、金山の大工さんが首都圏の建設地まで出てきて上棟までを行い、細かい造作を現場近くの大工さんに引き継ぐ「リレー方式」を13年前から導入しています。

最終的に大切なのはシステムではないんです。「木組み」は「気組み」というか、家づくりに関わるすべての人の「心」を組んでいくようなつくり方を、大切にしています。（山中さん談）

# 「木の家づくりネットワーク」「家づくりの流れ・Yさんの家の場合」

まずはDVDやCD、写真などでどんな家ができるのかを理解していただき、会員になると工事現場や完成した家の見学会に参加できます。設計・工事が進む間に金山の産地においていただき、森林組合の人や大工さんとのコミュニケーションで見学しながら、産地のあり方や木林風景、食材や町並み、生活環境を含めて見学しながら、産地のあり方や木林風景、食材や町並み、生活環境を含めています。

の家についての本質的な理解を深めていたぐことができます。上棟後もちよつとしたイベントや職人さんの交流の時間を設け、思い出に残るような家づくりを進めています。

## 持続可能な木材の生産地として……

これからのはづくりは、地球環境に負荷を与えることなく、住まい手とつくり手にとって快適・安全なものであることが望られます。

金山町森林組合は、「FSC森林認証」を取得しました。これは、国際的な基準で森林管理の質が高いことを客観的に認められたということ。森林が傷まないよう管理を改善するなど、自然環境に配慮されています。

それは、ひいては地球環境の温暖化を防止し、地域の自然環境の保全へつながっています。さらに健全な水資源の循環、木を巡る伝統文化の継承の基礎となるのです。



主構造の木組みは、刻みを行った金山の大工さんによってなされる



金山の大工さんの加工場で、刻みの作業を見学しながら心の交流を図る



樹齢200年を超える大木もあるという金山の産地を見学するYさん夫妻



仕上げ工事を、首都圏の大工さんにバトンタッチ。室内の造作にも木を生かして



Yさん夫妻と山中さんとで、解体した家の古瓦をアプローチに敷きつめた



上棟直後の様子。木組みの美しさに、山中さんや大工さんたちの力量が表れる



Y邸上棟式の様子。工事中にはご主人の誕生日も催され、職人と交流を図った

## HOUSE DATA

- 家族構成=夫婦
- 敷地面積=246.30m<sup>2</sup>
- 建築面積=90.89m<sup>2</sup>
- 延べ床面積=138.20m<sup>2</sup> [1階=85.93m<sup>2</sup> 2階=52.27m<sup>2</sup>]
- 構造=木造軸組み構法 [柱・梁=金山杉 土台=クリ]
- 竣工=2005年12月
- 設計=フィールドネット一級建築士事務所(山中文彦)  
TEL: 03-5453-3615 http://www.kinoie.ne.jp/
- 施工=河村建築、長倉建築工務店他
- 外部仕上げ [屋根=深谷いぶし銀黒と瓦 外壁=自然鉛色顔料入りモルタル塗り 建具=アルミサッシ、木製建具 塗料=植物油]
- 内部仕上げ [天井=スギ・サワラ縁甲板12mm厚 床=サクラ・クリ縁甲板15mm厚 内壁=漆喰塗り、土佐和紙張り 塗料=植物油]
- 設備 [キッチン=サクラ造作 浴室=青森ヒバ造作+TOTO浴槽+磁器質タイル トイレ=TOTO 照明=松下電工 暖房=ヒートポンプ式温水床暖房、エアコン]
- 総工費=3055万円 [仮設工事費=65万円 基礎工事費=140万円 木工事費=1300万円 屋根・板金工事費=150万円 建具工事費=320万円 左官・タイル・塗装工事費=180万円 内外装工事費=30万円 雜工事費=40万円 電気設備工事費=180万円 給排水・衛生設備工事費=250万円 その他=400万円]

